針葉樹

第一年第一号

本体は何れ

つい先頃迄程々と仲間に辱しめられ山に行けば決つと臭い話の張本人にされ、スキーの合宿に行けば布團蒸と云ふ有難い体刑を頂戴して泣く泣く悪い人のお相手をして居た可愛さう な私も昨年芽出度く山の皆様と御別れする事が出来たのでした。

ところがです。諸君!! 何たる因縁で御座いませう。「金ボタン」が背広に代つても「狸」の三字は消えろ処か「君近頃殆んど本当の人間に見えるね」なんて失敬なことを面と向つて云ふ奴があるかと思ふと「狸の○○は八畳敷だから寝るのに夜具はいらない」なんて苦いお方から誉められます。

何たる事でせう。

併し私と云ふ人間は近頃此の狸の名に懐しみを感じて来たのです。「それが本当に狸だものし」なんて仰言しやるでせう。そうかも知れないのです。場合によつてはね。

例へばペンちゃんとか駄馬とか云つた具合にとても良く本物に似てゐるので自然立派な名前が付く場合に本物は人間だがよくその動物に似て居るのか、或は本物はその動物だがうまく化けて人間に見せて居るのか一寸判断し兼ねる場合があるのです。そんなお方は本体はその動物では無いかなあと考へられる時もあるでせうが、何せ私の狸は事の起りが熊さんの瓦斯の事件ですから自分は例へ狸に愛着の念を持つ様になつても一寸とも自分は人間であると云ふ確信に疑を持つた事はありません。

一方の皆様、そしてよく其の動物に似てゐる諸君よ、諸君の本体は何れであるかと云ふ事に疑問を御持ちになりませんか?

「本体はいづれなりや」に関する認識方法に就いての科学的説明の一端

村　尾　金　二

此の問題は或る物の性質、形貌、特徴等の複雑にして本体の識別し難き時に起る。それを弁別

するに当り、その発生過程に於て考ふる時次の三となる。その一は或る物が轉化変成して他に成りたるもの、その二は一と一とが混融して別の一箇を生じたるもの、その三はその原因を同はず單に二者に酷似類同の結果を生じたるものである。

一の場合は雀海中に入りて蛤となり、或は屋島に沉みし平家の武者の蟹に化したるが如きである。この各の両者は雀が蛤に轉ぜんとする、或は平氏の武者の蟹にならんとするその変化の徴候或は若干の時間を除きては、雀は飽迄雀蟹は飽迄蟹であつて仮令甲羅に知盛の面があらうと、蟹は断然蟹であつて両者混ずべきではない。二に就いては南総里見八犬傳の伏姫と忠犬八房との間に生じたる、仁義忠孝禮智信侠の八勇士は犬なりや、人なりや。血のつながりはあるも此の本体は人であらう。志乃田の森の葛の葉の児に尾がないのは、つけ忘れたのではなくて、本体を人間としてる為ではなからうか。

その三が所要点でこれは豊大閤が猿に酷似し元場合が挙げられる。（或は禅史傳ふる所によれば猿が豊氏に酷似したりとも云ふ。）これは先天的な例であるが、独逸の或る動物園で五十数年鸚鵡を飼ひし老人の顔が次第に鸚鵡に似て来た云ふ後天的な場合もある。此の例に於て大閤や老人は依然大閤や老人にして、猿でも鸚鵡でもない事は平行線の交はらざる如くに正しい。偶て此処に一疑の種がゐたとする。二十幾年間人間の中に住み、顔付声色全く人間に眞似する様に馴らされて来たとするも、誰かその種を目して人間と云ひ得ようか。苦し人間なりと云ひ得るものありとせば、それは平行線の交る世界に住むものであらねばならぬ。

人か猿か　本体は何れ？　紙面制限、意不盡

外遊に際して

吉雄

普通だったらぼつ〳〵上京して見る頃ですが例に依って第二回目の再旅尼。来る二月一日長崎出航の浅間丸で香港初めシヤム、ビルマ、印度、南洋諸島、フィリピンへ約半年の予定で出っ張ることに確定した所のでまだしても思ひ出多い友達に当分会へないことになりました。いづれあちらの山にも登るお草でゐますから一寸色の変った感談や興味を提供することが出来ると思ひます。

南洋はいゝとしてもシヤム、印度なんて所は始めてでおまけに独りであり相手もチヤンとも唐ちんでいさゝか楽ではないのです。今日も店の

話ですがこんな無鉄砲も然に山の修業のお蔭だなんて笑ひた所です。

話は変りますが近頃お目出度が多くて景気がいゝですな・五十嵐の性解禁を始めとして……小生の様に学校を出ると南洋へ行き、偏朋すると兵隊に引っ張られ、又異国で酷暑と闘はねばならないと思ふと実に羨しいものですね。トン公が延び切ってる所なんかを想像するとガツカリナチオンでさ。

――俺は今こうしてゐる――　栄司

相変らずNYKの机にかぢりついて満三年にならうとしてゐる。だがもう近くにどこかへ追ひやられる様な気もします。日本の山々を後にして。

五月頃俺もとうく〳〵お父様になならうとしてゐます。奥野氏や吉沢氏の如く山の名前をつけたいのだが、生憎山の方ではまだしく経験が足りず、山にちなんだ名をつけることは遠慮しました。だが

「俺の子は山に登らせてやるんだ」と云ってゐますが、その度に、

「そんなことは羨ひるものではない」としかられてゐる。

それからは只山好きになるやうにと念じてゐます。

だが若し女だったら……

「お父様になることゝ」の夫董奥野氏の忠告によれば赤坊のタラヒは木製の丸型に限る由。何かと苦労があるものですね。

足　九郎

中之島へ来て二年、誰かを俺に置き換へたならもっと楽しがったかも知れない、それとも苦しんだかも知れない。だから俺は自分がほんとはどうなんだか知らない。俺が自ら誉かざるを得ないのは今迄生活と自ら名付けてゐたあの名状し難い主動的なものが、この他動と云小小型式に自ら適合して行く姿である。この頃の俺は新しい靴にちなじんで行く足の様なものだ。

今の俺に許された方法は引越しだ。足は新しい下宿の梯子段の勾配や段の高さに新しいものを感じて、未だ決ってゐない住きと帰りの道に自由を喜んで、そしてその悦びのなくなった時には又移ることも出来る。引越は俺の足がはきかへる事の出来る只一つの靴であり、今の俺に許された最も輝やかしい自由の一つである。

巷の下宿は屋根の上に枫柱が見える。寒い一日と二日とは住きは松林に白い六甲を、帰りは瀬戸内に赤い陽を眺めてなんて、もうこんな景

色で俺はなんともならないさ。山からは山、海からは海以上のものは求められまいな。けれども俺はそのまゝで済してゐる程にもなってゐるだらうか。

今年は暖かくて雨の中に登る伊吹山は黄色い秋だった。雪は三合目だけで少なかったし悪かった。けれどもこんなことからさへも俺は昔よく心を震はせたと同じものを掴み取る事が出来たぢゃないか。

可愛い火山の神鏡は雪が多くて野沢の様だった。火口壁をまわりながら右と左と交るぐく出るスキーに乗った自分の足を見下してから、光った青空を見上げて俺は、まわりにペン公や謙坊や近ちゃんのゐないのを不思議に思ったぢやないか。

同じ様な色と形の組み合せを、もういゝ加減古くなった感覚に通してこれから十年二十年、俺の足は倦み疲れる事なしに果して歩いて行くだらうか。大部分の時間を自分らしくなく暮してゐる俺を、ともかくこうして歩かせてゐるのは短かいけれども明るい時間ぢゃないかしら。山とスキーぢゃないか知ら。

× × × ×

二月十一日に與瀬から小幡峠を越えた。山襞が雪に埋められるとあの附近の山々も姿がぐつと引き立つ。峠の上下から浅川の方への下り道は二尺程の残雪でズボンは苛無しにしたけれども雪の上をぽん〳〵飛んで下りるのが愉快だった。

（佐美太郎）

今年はどう云ふ風の吹き廻しか、ダルム、インフルエンザとか申す風に当り二十日間ばかり寝てしまった。

二月十五日、初めて往来いに二を踏んだ。雲間は浮雲の上を渡るが如くフワ〳〵してどうしても足が地面につかない様で心細い事限りなく、これでは今年の山行もどうかとひどく心配してしまったが、足慣らしの意味で三月廿三日、折から の好晴を幸ひ社友と武州御嶽から馬頭刈尾根通五日市迄のコースを半信半疑で通つて見たがあのガチ〳〵した藪と岩にも不拘元気旺盛だったのですっかり自信をつけた。千米級の尾根としては面白い痛快な程で且費用もかゝらない点近藤君の御気に召すこと疑なし

（孫一）

毎日疲労から疲労への生活が積く。たまに休むと仕末が悪い程寝てしまう。結局起きてから

気分が悪くなると承知で十二時が過ぎても未だ寝てゐる。起きてから新聞を読んでゐるともう夕食だ。斯うして休日も無為だ。疲労と無為との連続、生活と云ふものをほんとに見つめると大低厭になる。と云っては仕方がない。あきらめて今日も又「いらっしゃい、有難う御座いました」をやるのか。

（ボコテン）

一年々々と老耄れて時迫えるものはゲレンデ許りだ。先月野沢へ行って痛感したのですが、愈々老衰の境に入りました。殊に一一熊さんが速度する通り一一オヤヂになるともう昔のやう様になります。唯口だけが一人前です。

諸君もいつかは陥入るべき運命と思ひますが一応先にはまり込んで悲鳴を挙げること斯の如し。

（ゲレンデ）

五十嵐君の披露式の席上で、ゲレンデ氏が「結婚してから山に行かなくなった人が二人あります」と云った。其の一人は暗に僕を指すらしいが、それは皮相の観察らしい。卒業後今日迄の山行の記録を調べて見ると、職務の関係上、現様こそ小さいが、昭和四年は八回で、在学中よりも、独身の時よりも多い。今年は尚多くなる予定だ。ゲレンデ氏及び針葉樹会員諸君、御安心を乞ふ。

（孫一）

雪の山を充分に楽しむ事を許されなかった身に冬は長かった。その冬も漸く去って甲南の地には山桜が咲き初める春が来た。然し此の春にも慣いて来る私の最も好きな新緑の候にも、もうあまり多くを期待することの許されない私ではある。

白樺の若葉が薫る頃、信州や上州の山辺を思ふ存分に逍遥する事の出来る身に帰りたいとどれ程思ふ事か。此の一年は旅らしい旅にも出た事のない私である。今年こそは、本当にそう沢々と思ふ。

遠い旅に出られない迄も、せめて、六甲の麓にさゝやかな巣を営んで、週毎に来る休日にはあの和やかな丘陵の裾辺で、息ふ事だけは許される生活を楽しみたいと思ってゐる。（英二）

いよ〳〵土曜から日曜にかけての山旅によい時になって来た。何処へ行っても面白い一日を暮して来れる。毎土曜日曜を人一倍首を長くして待ってゐるものに英坊が居る。同じ待って居

ても山ぢやなくつて御二人で何処か散歩しようと云ふんだ。公然の御許しで土、日の二日は一緒に歩けるんださうだ。子を知るものは親なるかな。所が或る土曜日京都からの電話、勿論おやぢからだ。一緒に土、日曜も出かけるのもよいが遅くとも土曜日はきっと家に帰る様にとのきついお達し、英坊あわて、例の「ヒェー」と悲鳴を上げた。これが彼の最近衰弱した主なる原因ではないかしら。（トン公）

大阪へ行ってトンちゃんの家に厄介になること十日間、似合の夫婦――世の中の事はなんでも知って居ないものはないと云ふ様な顔の新郎と無邪気そのものゝ様な新婦――対照を一つ二つ報告する。

俺が「只今」と云ふと、新婦は「ハッ御帰り」俺が行って参ります」と云ふと「ハッ早くお帰り」「ハッハッハ」新兵さんの様な新婦さんだ。

トンちゃん「おっゆはまだあるかい」

新婦「固くなってしまひましたのよ」

トンちゃん「エッ固くなったって、おっゆがかい」

夫人「すっかり蒸発してしまったのですわ」

俺「ウヘエッ」

四時半頃帰って来て着物にかへる。トンちゃん益未だ帰らない。火鉢の傍にどっかと座り込むと葛子さんは昨日の歌を放へてくれと夕飯の仕度はやめて了ふ。狸の様にいくら詰め込む様にして放へてもテンデ反應のないのとは違って隙る解りが早い。ハァァァなんて旨いものだ。千曲川を渡渉する位朝飯前だ。

三人で夕飯にとりかゝる。

トンちゃん「おい熱があるのかい」

夫人「此の辺にあるらしいのです」

トンちゃん「どれ〳〵」

と云ふといとも優し気に御手を以て御額を反せさせ給ふ――！俺の前でね――のだからやり切れない。（熊公）

熊さん山の本を著はす。その中に、汽車の中で何処かの婆さんが

「こちらから東京へ稼ぎに行くのは多いが東京から来るのは珍らしい。」

と云ふて感心して居た。とある。（登高記四四頁）

登山姿が珍らしいと見えて反んて言ひ訳をしてゐるけれど、どう考へてもこの婆さんの観察の方が当ってるらしい。（佐美太郎）

部室横

吾が針葉樹会もいよ〳〵会報を出すとの事、先輩諸兄の御努力によつて益〻その行くべき道をしつかりと進んで居る様が見えて共も深くお喜び申上げます。

編輯の松木さんから学校の様子を書けとの御命令によつて商業上部の近況をお知らせ致します。東京に居られる方々には已に先刻御承知の事ばかりですが、関西や、その他、地方に居られる方々も多いと思はれるので一通り書いて見ます。

昨年中の変つた出来事は先づ浦松氏が御帰朝になつて部の当に種々御指導下さる様になつた事及び岳联加入の件であります。浦松氏の御指導は実に部に取つて非常な利益を与らし、殊にロッククライミング等に就いては我々非常に得る所があつたと信じて居ります。

今年は新学期早々、浦松氏を主として研究会を開く計画で、第一回は部室に於て先づ"ミのぞき"を"Rock"としてロッククライミングに就いて研究会を開き、さらに新入生歓迎旅行を兼ねて三峠に其の実習に出掛ける事になつて居ります。

次に岳联加入の件でありますが、これは昨年の六月頃早大山岳部の提唱によつたものでそれ以来十二月の終り迄色々折衝を重ねた末出来上つたものであります。その間何しろ我々に取つては全く経験の乏い事であつたので、種々まづいたりし失敗したりしましたが、兎に角、つくすべき議論は充分つくして務成立したものであります。

又我々も大いに力と乏らん事を期して居りますが、その内容に就いても御知らせしたいと思ひますが紙面があまり乏いので割愛いたします。何れ近い将来に何等かの方法を以て御知らせする事が出来ると思つて居ります。

尚スキーの合宿も昨年の十二月から色々と酒屋と交渉し乏末、多年の懸案であつた専用乾燥室の設置も実現し、其の他待遇の改善等を与さしめ又昔の様な楽しい合宿と乏りました。又我々の方も初めての人々のコーチには専任の者を定めたりしてこの三月の合宿には初めての人達も全部も過迄二回行つて来た様な次第でした。来年のお正月には是非共針葉樹会として大いに滑る事を今から楽しみにして居ります。その節はぜ〻〻〻しくお出で下さらん事を我々一同望んで居ります。殊に関西の二人看護婦のおそろひ

で御出馬されるのを期待して居ります。

甚だまとまらない事を書いて貴重なる紙面を汚し乍次第ですが何分明日朝へ出掛けますので これで御勘辨願ひます。（五・四・七）

消息

奥野綱重　三月二日長男誕生、名は高嶺さん。

坂倉栄司　四月廿日頃第二世誕生の予定。

五十嵐敏馬　三月廿八日から三日まで結婚披露の為上京、新郎は葛子さん。

大阪府三島郡吹田町寿祿二八〇四

吉澤一郎　四月中旬家内全部大阪に移轉す。

大阪府三島郡吹田町浜田二八〇一

渡辺九郎、縁談決定の噂あり。

兵庫県西宮市西波戸三五七五ノ三阪東方

曽田荘太郎　人が変つた程実直になつた。

矢作太郎　丸善書籍株式会社に採用決定し東京本店勤務

東京市小石川区原町一三斎藤方

村尾金二　東京市本郷区千駄木町五九　湯浅方

松本謙三　東京市外西巣鴨町宮仲二一六五

赤城鈴太郎　東京市外中野町桐谷一三六四　井上方

高木英二　兵庫県武庫郡精進村芦屋伊勢田五九一岡本方

冠木啓蔵　二月一日入営第一期検閲に被られてゐる。去年松本の居た中隊と同じ

仙台市歩兵第四聯隊第十一中隊幹部候補生

記錄

（自一月一日至三月廿一日）

十二月廿六日―一月五日　吉沢一郎

野沢温泉より熊ノ湯草津へ　浦松佐美太郎

一月一日―三日　富士山

登路吉田口、風にたゝかれ七合目で退却　高木英二

一月一日―五日　野沢温泉　近藤恒雄

仝　赤倉温泉　奥野綱重・近藤恒雄

一月廿六日　妙高温泉　近藤恒雄

二月九日　伊吹山　渡辺九郎

二月九日―十一日　野沢温泉　奥野綱重

二月十一日　水上温泉　近藤恒雄

仝日　愛宕山　五十嵐敏馬

二月廿三日　五色温泉　奥野綱重

仝日　神鍋山　五十嵐敏馬・渡辺九郎

三月九日―十四日　野沢温泉　浦松佐美太郎

三月六日―十日　野沢温泉　曽田荘太郎

三月廿二日―三日　野沢温泉　奥野綱重

三月廿三日　愛宕山　吉沢一郎

以上